

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム菜の花しのろ館 I	評価実施年月日	平成21年9月28日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月5日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>ケア理念、ホーム理念があり、地域とのふれあい、地域の中でその人らしく生活ができるように独自の理念をかかげている。</p>		<p>理念は常にホーム内の目につく場所に掲示している。利用者様やご家族にはお便りでもお知らせする機会を持ち、地域の方にも理念を伝える機会を持っている。また、地域とのふれあいは、年々多くなり利用者様が地域の中でその人らしく生活ができるようになってきている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>新人研修、ユニット会議の中でも理念を再度確認しており、理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>地域の方との交流を多く持っており、その中で地域の中で暮らし続ける大切を伝えており、地域の方の理解が浸透している。ご家族も地域の方との交流が多く持たれている事をお知らせしている。</p>	○	<p>地域の中で暮らし続ける大切さが地域にも浸透し、運営推進会議の中から地域の方、地域包括支援センター、ホームが協力し「地域とともに生きがい求めて」を主題とした研修会が実施された。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近隣の方との関わりは多くなり、畑で採れた野菜や果物を持って気軽に立ち寄ってくれ、気軽に声をかけ合っている。</p>	○	<p>近隣の方とは、隣近所の良いお付き合いができているが、今後も良い関係が築けるように取り組んでいきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の一員として地域活動に、利用者様も多く参加し、地域の一員として交流を楽しんでいる。</p>	○	<p>地域の行事や活動には常に参加しており、地域の方と協働してのお祭りや研修会の実施をしており、今後も地域住民として交流を更に深めていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>認知症介護を活かし、認知症キャラバンメイトの講習を受け、運営推進会議の中で認知症になっても住み慣れた地域での生活ができるように呼びかけを行っている。また、地域の方との交流時には、介護相談を行っている事を伝えている。</p>	○	<p>町内会・包括支援センター・介護予防センター・地区の社会福祉協議会と協働して介護予防・認知症予防の講習会を実施した。今後も継続して行えるように努めたい。沢山の介護相談はないが、介護相談が気軽にできるように努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の意義を理解し、改善すべき点を把握し、職員全員が改善実施に取り組んでいる。</p>	○	職員一人ひとりが、外部評価の意義を理解し、意識を持ち取り組んでおり、改善につながっており、課題の解決や達成のために取り組んでいる。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議は定期的に行っており、今年度から新しい構成員を迎え入れサービスの向上に努めている。</p>	○	運営推進会議に実習生や他館の管理者など、多方面からの意見や感想をもらい、運営推進会議の中から新しい取り組みができるように努め、サービスの向上を行っている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の担当者との関わりは多くはないが、市の担当者に直接連絡をして、質問などを行いサービスの向上に努めている。</p>	○	市からの連絡事項を職員に周知させてサービスの向上に取り組んでいる。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>内部・外部の研修の参加により地域権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。</p>	○	活用できるように支援する機会はないが、今後も学ぶ機会を持ち必要時に的確な支援ができるように努めたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>内部の新人研修・スタッフ研修や外部の虐待研修に積極的に参加をし、学ぶ機会を持っており、虐待のない介護を実践している。</p>	○	虐待について定期的に学び、話し合い、虐待による事件などの報道があった時は検討会を行い、常に虐待がないよう取り組みを行っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約や解約をする際は、十分な理解を得られるようにしており、しっかりと納得している。ただいたうえで契約を行っている。</p>	○	不安や疑問があればいつでも対応するようにしている。また、退去による契約解除後でも相談や疑問があればいつでも対応を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見・不満・苦情はしっかりと受け止め話し合いを行い、職員全員が周知して改善や対応に努めている。	○	苦情があった時は職員全員が周知して改善に取り組めるように、苦情処理簿を作成している。苦情があった時は、早急に対応するため、すぐに苦情に対しての検討会を行っている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族に直接日々の様子をお伝えする他に、状況によりお電話でお伝えしている。職員の異動や新入職員についても口答でお知らせしたり、ホームのお便りでお知らせしている。金銭管理については、個人の出納簿で出入金の内容と領収書明細を郵送している。	○	担当職員が利用者様の様子や状況を写真つきのお便りでお知らせしている。今後はさらにお便りの内容を充実できるように取り組みを行い、ご家族が様子や状況を把握しやすいように努めていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の意見・不満・苦情を来所時にお話しを聞く機会を持つように取り組んでいる。また、意見箱の設置、外部の苦情処理窓口の連絡先をホーム内に掲示している。	○	苦情は介護の質やホームの質を良くする大切な事である事をご家族にお話している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者会議・リーダー会議・ユニット会議の際に職員に意見や提案を聞く機会を設けている。日々の業務内容でも管理者に意見や提案できる体制はできている。	○	ワーキング委員会が設置され、事業所の問題点の改善、職員の意見や提案が更に、取り入れやすくなるように設置された。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様やご家族の要望に柔軟に対応できるように、勤務の調整はその都度話し合い調整を行っている。	○	利用者様の身体状況の変化が多く見られ、援助が多くなっているが、人員の確保がされており、対応は柔軟に行われている。各ユニットの協力体制も整え更に柔軟に対応できるように取り組んでいる。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者様にダメージを与えるような移動や離職がないように十分に配慮している。	○	新入職員は利用者様一人ひとりに紹介をし、ゆっくりと焦らずにコミュニケーションをとるように配慮を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>新人・スタッフ・管理者・リーダーなどの内部研修は充実している。外部の研修にも積極的に参加できるように運営者は取り組みを行っている。</p>	○	<p>事業者が研修への参加を積極的に行っており、職員も研修に参加することにより、研修で学んだ事を仕事に活かしている。また、研修の伝達をする事で職員全員が研修で得たものを共有している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域の同業者との交流は多くはないが持っている。</p>	○	<p>地域の同業者との研修会に積極的に職員が参加し、意見の交換を行ったり当施設のお祭りに参加を呼び掛け参加してもらい交流、地域の保育所の運動会と一緒に参加して交流を持っている。更に交流が持てるように取り組みを行っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>休憩時間の確保をしつかりと行い、気分転換がなせるように配慮している。職員のストレスが軽減するように話し合いの機会や個人的にいつでも相談ができる環境づくりに努めている。</p>	○	<p>ストレスの軽減や問題点の改善が見出せない時などは、介護部長が相談役になってくれている。職員が一人に利用者様の介護で、ストレスを抱えていたため、1階ユニットから2階ユニットに異動をしてストレス軽減の対応を行った。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員、管理者の個々の努力や実績、勤務状況を評価し、向上心につながるよう努めており、時給や資格や努力、実績に応じての昇給や昇格がなされている。</p>	○	<p>積極的に研修へ参加し、個々のスキルアップする事で自信が持て努力する事で資格取得につながり、向上心を持って働ける職場環境となっている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族と一緒にホームの見学をしていただき、ホームの雰囲気を実感して頂いている。状況によっては、病院や自宅を訪問して意向や悩み、不安を受け止め話し合いを行っている。</p>	○	<p>信頼関係の構築をし、安心して利用ができるように努める他に、困っている事や不安な事、求めている事を傾聴する機会を持っている。又、言葉で伝えられない方には、行動や仕草のほか生活歴、ご家族からの情報など、状況を早期に受け止めるように努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前や入居時にご家族の不安や悩みを受け止め、不安や悩みの解消に最善を尽くし、信頼関係の構築に努めている。</p>	○	<p>不安や悩みがない状況での入居になるように取り組み、入居後も気軽に相談や悩みの解消ができるように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様やご家族の意向や状況を把握して、必要と思える援助を検討して柔軟に対応できるように努めている。	○	利用者様やご家族からの意向や状況に変化があった時は早急に検討し対応している。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様の生活リズムを把握して、利用者様のペースに合わせて馴染めるように配慮を行っている。ご家族のご協力も重要で相談し協力をしていただき、安心し納得出来るような、対応をしている。	○	体験入居の実施や、ご家族と、食事と一緒に食べていただき、ホームの雰囲気を見てもらい、少しでも安心して利用ができるように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	理念に掲げている「一人ひとりの気持ちを大切に、家族として共に過ごします」をケアの理念としており、疑似家族ではあるが、家族として過ごし喜怒哀楽を共にしており、互いが支え合う関係に努めている。	○	人生の先輩として、敬う気持ちを常に持った対応に努めている。経験豊富な利用者様の知恵を活かした取り組み、料理や編み物、昔からの習わしなどを教えていただける機会がある。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来設時には利用者様の様子を伝え、ご家族からの情報や提案をいただき、利用者様がより良い状態で生活ができるようにご家族の協力を得ている。	○	ご家族とホーム双方より、相談しやすい雰囲気作りのため、日頃から小さな事でも気軽に話し合える関係の構築に努めている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族、利用者様のこれまでの関係や状況を本音でお話して下さり、関係を理解し、よりよい関係が築けるように努めている。	○	ご家族が本音でお話して下さり、ご家族と利用者様との良い関係の維持に努めており、利用者様がご家族と一緒に時間を過ごせるように、行事へのお誘いをし、参加していただき、一緒に食事をして、楽しい時間が過ごせるように取り組んでいる。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時は自由に楽しんでいただいている。場所については曖昧だったり、遠方だったり、色々な理由で訪問は難しくなっている。	○	お正月やお盆などにご家族と外出する方は少ないが、ご家族や親せきがホームに集ることがあり、交流が途切れないように、またの来所をお願いしている。来所された際に記念撮影を行い、楽しい思い出として利用者様やご家族に差し上げている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	時々、席替えをして色々な方とのコミュニケーションが取れるようにしたり、トラブルや孤立を避けるため職員が間に入り橋渡しをしている。	○	職員が利用者様と共に過ごす時間を更に確保できるように、取り組みを行う。利用者様同士が関わりあい、支えあっている場面もみられるが、孤立しがちな利用者様があり、時間を確保して他の利用者様との橋渡しを増やしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	前回の自己評価から契約を終了された方はいないが、契約が終了される方がおられた時は継続した関わりが維持できるように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様本人やご家族からの意向を入居前、入居されてからも聞く機会を多く持ち把握するように努め、伝えられない方は暮らしの場面や言動など、小さなサインを見逃さず、本人本位に検討できるように努めている。	○	意思疎通が難しい利用者様の意向や希望が少しでも察知できるように、暮らしの中での小さな言動、気づきを独自の気づきのシートに記入し、職員全員が把握し、検討する事で意向や希望の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にセンター方式の生活シートの記載をしていただき、利用者様やご家族の状況をお聞きしており、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などを情報から把握して、個々の生き方、暮らし方、環境に少しでも近づいた生活ができるよう取り組んでいる。	○	生活歴や馴染みの生活を把握する事で、手先が器用で作品を作る事が楽しみで、生活の中にとけ込んでいた方に、町内会の藍染めに参加、作品作りをしていただいた。内部だけではなく地域のネットワークも活用して暮らしを支援している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタルチェック、持病や体力の把握、観察により普段とどう違うか、気分の変化も含めて把握に努めている。	○	お手伝いをお願いする事で有している力を失わないよう心がけている。できる力を沢山持っているため、それを活用できる機会を作る取り組みを行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族からの意向や希望をお聞きし、更にアセスメントを行いユニット会議の中で検討を行いその都度、介護支援専門員の適切な監理のもとで介護計画を作成している。	○	利用者様、ご家族の意向や希望を介護計画に反映させるためにも、介護支援専門員は積極的に研修に参加し、スキルの上昇に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回見直し、立案しているが、心身、疾病、退院等、状態に変化が見られた時は、現状に即した計画になるよう見直しをしている。又、担当者の評価をもとにサービス担当者会議で意見を集約して、利用者様、ご家族の意向を総合してプランを作成、ケアを統一して行っている。	○	利用者様がうまく意向や希望が伝えられない事が多く、気づきのシートを活用、都度アセスメントし、現状に即した計画を作成している。状況により、主治医や訪問看護師の意見も聞き介護計画に反映するように取り組んでいる。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌、ケース記録、毎日のミーティングで頻繁に話し合い、情報を共有できるようにしており、情報を実践や介護計画に活かせるように努めている。また、情報を職員が更に周知できるように、連絡ノートや介護日誌の特記を活用して実践への反映に努めている。	○	飲水量、食事量、排泄状態、バイタルなどの身体状況も記入して活用している。更に、独自に作成した気づきのシートを活用して取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出、受診同行はご利用者様、ご家族の要望に合わせて行っている。	○	小規模ならではの、小回りの利く支援をしていきたいが、入居年数を重ねていくうちに、受診する病院が多くなっているため、職員の配置が難しい事もある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる協力も多方面に渡り、協力をいただいている。消防署にも協力をしてもらい、地域の方と合同で避難訓練を行っている。	○	教育機関とも協働しており、中学生の職場体験学習も受け入れており、体験学習を通してお互いが協力をしながら、支援をしている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状では、他のサービスを利用する必要性のある方はいない。	○	地域のサービス事業者と頻繁ではないが、話し合う機会があり、サービスが必要な場合の相談などできるように今後もつながりを維持していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通しての周辺情報の提供をいただいている。	○	運営推進会議で町内会、地域包括支援センター、介護予防センター、地区の社会福祉協議会と協働し「地域と共に生きがいを求めて」の研修会を開催し「介護予防」について研修を行った。今後も協働して取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	かかりつけ医は、利用者様やご家族の希望で決めている。また、希望がない場合は相談して納得いく医療機関を受診できるようにしている。	○	利用者様やご家族が医療機関に対しての要望や希望がある時は、利用者様やご家族に変わり担当医師にお伝えしている。また、往診を受けている利用者様が多く、日常生活の様子も医師が確認することができ、アドバイスをいただく事もある。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要と思われる利用者様は、心療内科を受診している。、ご家族も自由に往診に立ち会い相談ができています。	○	小さな変化など気づいた事は、往診時以外にも担当医師に連絡、相談などを行っており、医師の診断や治療を早期に行っていたらよいに支援している。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回、訪問看護師による健康チェックを受け、職員も気軽に相談し、日常生活、受診時のアドバイスを受けている。	○	今後も看護師との連携が必要であり、連携を活かして支援を行っていきけるように努めていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	お見舞いに伺い馴染みの顔を見て安心していただいている。病状と退院後の受け入れ態勢について情報交換し、利用者様とご家族の希望も踏まえて柔軟に対応ができています。	○	認知症の理解や対応ができていない病院選びも重要であり、入院時は利用者様とご家族と相談のうえ決めている。入院治療中も安心して過ごせるように努めている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時には説明して、同意書をいただいているが、その都度状態に合わせて利用者様やご家族の希望を尊重し、医療サイドとも話し合い、納得の得られる選択ができるよう取り組み体制はできている。	○	利用者様やご家族の方針が変わったり、状況によって変わる場合などは早急に方針の共有をするよう取り組んでいく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者様やご家族の意向を踏まえながら、取り組みができるように利用者様の状態が少しでも変化がみられる時などは、検討を行っている。	○	かかりつけ医師から直接の指示や、状態変化時の対応や連絡体制を確保しており、終末期をできるだけホームでより良く暮らせるよう取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	アセスメントやケアプラン、生活リズムや支援の内容などの情報をしっかりと介護者が理解把握しており、住み替えなどがある際はくらしが継続できるように、情報を提供できるようにしている。	○	利用者様の生活や体調に変化があれば随時話し合いを行い、ケアプランの見直しや支援内容を変更して対応しており、情報の提供が必要な時に最新の情報提供ができるように取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシー確保、個人情報については厳重に取り扱いを行っており、一定の場所に保管し、重要な物に関しては鍵つきの書庫に保管をしている。	○	誇りやプライバシーを損ねる対応や言葉かけがないように、職員同士でも、お互いが注意しあうように取り組んでいる。また、内部の研修でもプライバシーについての研修や言葉遣いと敬語についての研修も行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定ができる方が多いが、自己決定や希望がうまく表現できない利用者様には個々の理解力に合わせて、できるだけ納得しながら、暮らす事ができるように取り組んでいる。	○	選択できるようにして、自己決定がしやすく希望がかなうように対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけ利用者様の希望やペースに沿えるように努めている。起床時間や入浴時間、食事にかかる時間等、個々のペースに合わせて対応するように努めている。	○	その日その時、すぐに個人の希望を叶えることができない事もある。業務の効率化をはかり、できるだけその日その時に希望に沿えるように取り組んでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	整容・洋服選びは必要に応じ、相談しながら援助させていただいている。理美容は月1回特定の訪問業者に依頼しているが、満足していただいている。	○	理美容については、利用者様、ご家族の希望があれば他店への同行は可能であり、希望があれば対応していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の状態に応じ工夫をしている。食事作りや片付けは毎日一緒に行っている。	○	やらされている感じがでないように、十分に配慮を行い、職員と楽しみながら行っている。お手伝いしていただいた事に対しては必ず感謝の言葉を伝えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒や喫煙されている方はいない、飲み物やおやつに関しては好みの物を楽しんでいただけるように努めている。	○	個々に合わせて飲み物やおやつをお出ししている。手作りのおやつは好評でできるだけ、手作りのおやつをお出しできるようにしている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用いて排泄の間隔を把握し、誘導をして失禁を減らせるように対応しており、パットの使用はできるだけしないように支援している。	○	便秘傾向の方には、個別に野菜ジュースやヤクルトなどを用意して、下剤だけに頼らずに気持ちよく排便ができるように工夫をしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日は特に決めず、ほぼ毎日入浴ができるようにしている。	○	毎日入浴を希望される方には毎日入浴していただいている。入浴時は個々のペースでゆっくりと入浴できるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は決まっておらず、休息、睡眠とも各自の自由になっている。日夜とも生活パターンを把握し、休息を妨げないよう配慮している。	○	夜に眠られないこともあるが、会話したり一緒にリビングでゆったりと過ごしていただく等ゆったりとした環境を作っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力を活かしていただいております。役割ができています。役割を持っている事で生活に張り気がでており、楽しみとされています。	○	認知症の進行や身体機能の低下によって、今までできていた事ができなくなる事もあるが、さりげなくサポートしたり、他にできる事を探り、自信喪失をしないように支援を行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望によってお金を所持されている方もおり、希望に応じてお買い物に同行してお買い物から支払いまでを自ら行っていただけるように支援している。	○	お小遣いとして事業所でお預かりしているが、個々の希望や力によって対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所の中だけで過ごさず、天候にもよるがほぼ毎日散歩へ出かけている。個人の希望での外出はできるだけ希望を叶えられるように支援している。	○	受診同行が増えており、希望がすぐに叶えられない事がある。また、外出を強く拒否される方もいるが、気分の状態を把握し、少しでも戸外に出かけられるように支援している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に1回は行事を企画しており、できるだけ外出行事を企画し、利用者様の希望を取り入れている。	○	ご家族との外出の機会もある。利用者様によって異なるが、お墓参りや法事、買い物や食事に出かける機会を持たれている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	制限はなく、自由にご家族や友人に電話をされている。介助が必要な方には、職員がお手伝いし、支援している。	○	お電話でのやり取りが多いが、お手紙などに関して希望があれば代筆や投函を支援している。大切なお付き合いが途切れないよう、希望があった時にすぐに対応していく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問に関しての規制はなく、いつでも気軽に来ていただいている。居室やリビングでゆったりと過ごしていただいている。	○	気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりや、利用者様からの礼状作りの支援をしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束により利用者様が受ける身体的、精神的弊害について理解しており、身体拘束は行っていない。	○	内部・外部の研修で身体拘束についての研修に全介護者が参加し、伝達講習も行い身体拘束について学び取り組みを行っている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は開錠されている。		居室に鍵がついており、利用者様の意志で鍵をかける方もいる。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮をして所在確認、居室での過ごし方、様子を伺い安全を確保できるように努めている。	○	日中はプライバシーに配慮するために、ドアをノックをして声かけを行っている。夜間は定期的に訪室し、安否の確認をしている。個々の状態により、頻繁に確認したり、覚醒時に転倒の可能性が高い方には特に注意をし、安全に配慮している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や洗剤は鍵付きの保管場所に保管しており、日常的に使用する石鹸や歯磨き粉は個々の状態に応じて制限はしていない。	○	できるだけ、制限を少なくし、危険がないよう取り組みを行っている。認知症の進行に伴い認識が低下し、危険が考えられる場合はその都度、状況に合わせて対応に取り組んでいる。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒事故の防止に環境整備、見守りの強化、毎日の運動を行い、転倒事故防止に努めている。又、窒息などがないように、食事前の嚥下体操の徹底、利用者様の咀嚼状態、嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。誤薬については、名前と日付の他、いつ服用する薬かを声に出して確認し、服用を最後まで確認している。行方不明に関しては、所在の確認と玄関やユニット入口の出入りを確認している。火災の防止には避難訓練の実施、火災の原因となりうる物の定期的な点検を行っている。	○	事故防止のために、インシデントやヒヤリハットが発生した時は早急に検討を行い対策に取り組んでいる。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命講習の実施や内部研修などで対応について学んでいる。また、緊急時のマニュアル、連絡体制も随時見直しや追加をして事故発生時に備えている。	○	緊急時に適切に対応ができるように今後も定期的に訓練や研修に参加できるように取り組んでいく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の方と合同で避難訓練を行っている。更に、近隣の方の協力で災害時の緊急連絡網を作成しており、緊急連絡網を使用した避難訓練も実施した。	○	災害時には地域の人々が、利用者様を一時的に保護して下さるよう協力をお願いして、協力して下さる事になっている。また、地域の方が火災や災害などの際はホームでも協力していく事も伝えて互いに協働できるような態勢ができています。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	認知症の進行や年齢による身体機能の低下などによる個々のリスクについて、ご家族にお話しをしている。ご家族に理解をしていただく事で、いつでも相談し最善策を考え抑圧感のない暮らしが提供できるように努めている。	○	リスクをご家族に理解していただく他に、医療関係者や訪問看護師からのアドバイスもいただき、抑圧感のない生活を送れるように努めている。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	健康状態の目安に毎日のバイタル測定のほか、水分、排泄状態、食事の摂取状況を記録して体調変化の目安にしている。また、情報を共有するためにも、異変があった時は介護日誌に特記事項として記録している。	○	個々の体調や状態に合わせて、個人的に食事摂取量を細かく記録し、小さな変化に気付けるように取り組んでいるが、記録の書き方や情報交換を更に充実できるように取り組んでいく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を個人の記録に閉じてあり、いつでも確認ができるようにしており、副作用や用法用量について確認するようにしており、不明な点があれば医師や薬剤師に相談をしている。	○	新しく薬が処方された時は全職員が周知できるように記録に残し、薬の副作用が見られないかを観察している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘が及ぼす影響について把握しており、排便管理は徹底している。予防にも努めており腹部マッサージを行うなど取り組みをしている。	○	体操を毎日行い、水分摂取量を表にして把握し、少ない場合は勧める。牛乳は毎日全員に飲んでいただいている。その他個別に野菜ジュース、ヨーグルトなど好みに応じお出ししている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは徹底できるように努めており、個々の口腔状態や力に合わせて対応できるように努めている。	○	口腔内の清潔の保持が困難な方には、歯科医師からの指導をもらい介助にて口腔ケアの徹底に努めている。認知症の進行により歯科の治療が困難な方が出てきており、歯科の選択と医師と協力の態勢を確保し、歯科治療ができるように取り組んでいきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士により、カロリー計算がなされており、バランスの良い献立となっている。利用者様の状態や習慣によって食事のメニュー、量や味の調整、形態を変えて柔軟に対応している。	○	好きな物、嫌いな物、好んで摂取できる水分の把握をしており、個別性に配慮をしている。また、食事が減少している方には、医師に相談してエンシュアを使用するなど対応をしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの他、内部研修で感染症について学んでいる。日々、手すりや床の他、食器の消毒などを徹底している。また、来設した家族様や外部の来設者様には手洗いうがいの徹底の他、健康状態の確認を行い、外部からの感染防止に努めている。	○	下痢や嘔吐物の処理マニュアルがあり、処理セットも用意をしている。インフルエンザの予防対策も徹底しており、利用者様やご家族様の同意を得て、予防接種を行っている。職員全員が受けているが、事業所が接種費用の一部の負担をしてくれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所や調理器具、食器の消毒を毎食後行っている。食材は新鮮な物が配達されている。食材の取り扱いについては、冷凍物は室温で解凍せずに、冷蔵庫内か電子レンジにて解凍するように徹底している。	○	火を通す食材はしっかりと火を通し、生の野菜や果物はしっかりと洗い、素手での調理は行わず、食中毒のないように徹底しており、栄養士が定期的に台所のチェック、保存のきく食材調味料も賞味期間の確認をし、管理を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りやホーム周りは、花壇や畑があり、近隣の方や大家さんが季節の花を植えて下さり、明るい印象である。設置しているベンチでは近隣の方が休憩されたり気軽に使用されている。	○	近隣の方や通りすがりの方が気軽に出入りしている。また、子供110番にも登録して、玄関先にステッカーが貼られているため、誰でも安心して出入りしやすいようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には季節の花を飾ったり、トイレや浴室は清潔を保持して、気持ちよく使用していただけるように努めている。不快な音や光がある時は早急に対処している。		台所は対面式になっており、職員と会話をしながら、食事作りを楽しむことができる他、調理の音や匂いを感じることができ、生活感を感じていただいている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用の空間で、食卓やソファーでお話されたり、テレビを観たり、ソファーで横になりながらテレビを観られたりと思いいいに過ごされている。	○	大きな環境の変化で不安感を招かないように常に配慮を行い共用の空間づくりに取り組んでいる。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には使い慣れた物を持ち込んでいただけるよにしている。ご自分で描いた絵や作品、お気に入りの写真を飾ったり、居室の装飾も自由にいただき、利用者様が過ごしやすいようにしている。	○	利用者様やご家族と相談して、アルバムを持ち込んでいただき居室でアルバムを見ながら過ごされる方、ご家族も馴染みの物があるため、ゆったりと過ごされおり、昼寝をされたり、お茶やお菓子を召し上がり談笑されており、職員は空間の維持ができるように取り組みを行っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日換気を行い、気温や湿度についても配慮している。	○	こまめに室温の調整を行うように努めている。湿度が維持できるように加湿器や洗濯物で調整する他に居室にぬれタオルを干して湿度が維持できるようにしている。利用者様の状態によっては、相談し居室に加湿器を設置している方もいる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやバリアフリー、ユニバーサルデザインを取り入れた浴室などの他、階段の他にエレベーターが設置されており、個々の身体状況に合わせて自立支援ができるようになっている。	○	利用者様の身体状況に合わせて、手すりを増やしたりして、身体機能をできるだけ活かして生活できるように常に工夫をするように取り組んでいる。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用様のわからない事、わからなくなった事を把握する事で職員やご家族からの情報、利用者様のこれまでの生活歴などを参考にして自立支援に取り組んでいる。	○	できない事、できなくなった事を把握する事で、できないと思っていた事が対応によってできるようになったりする事も沢山あるため、できない事やできなくなった事を把握し、対応をいろいろと検討して対応していくように努めている。混乱や失敗を防ぐ他、失敗された際に利用者様のプライドが傷つかないように配慮して対応にあたっている。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や庭には季節の花や野菜が植えられ、観賞や収穫を楽しめるようにしている。ベランダでは毎年、プランターで花を育て、水やりなど利用者様ができるようになっている。また、洗濯干しを設置してあり、ご自分で干したり、回収したりできるようになっている。	○	近隣の方も自由に畑に入られ、一緒に花を植えたり、野菜を収穫されたりしており、近隣の方との交流につながっている。また、お花に詳しい利用者様があり、職員と一緒に花の苗を買いに行き、アドバイスもいただいている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ◎①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ◎②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ◎②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>◎①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>◎①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ◎②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ◎②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

・年々、地域とのつながりが多くなっており、利用者様が町内の行事に参加する事が多くあるため、町内会の一員としてのほか、馴染みの関係ができています。今後も利用者様が地域の中で、地域の一員として自宅で過ごしていた頃のように生活ができるように取り組みを継続している。

・地域の一員として、事業所の特性を活かして地域に少しでも貢献できるように取り組んでおり、町内会や地域包括支援センター、介護予防センターや地区の社会福祉協議会と協働して「地域とともに生きがいをもとめて」という事で集い「介護予防」の研修を実施し、町内会の方も沢山参加され、利用者様と職員も参加した。

・身体的な機能の低下を防ぐためにも、散歩を沢山取り入れたいが、散歩を拒否される方が多く、階段を利用したの運動など工夫をしている。